

「佐渡金銀山」保存・活用行動計画
令和2年度事業点検・評価調書

4- II -3

4- II -3

章	第4章 世界遺産登録に向けた来訪者の受入体制整備	取組項目	多様な説明媒体の整備
節	II. ガイダンス機能・ガイド体制の充実		
事業(施策)名	3 多様な説明媒体の整備	事業主体	佐渡市世界遺産推進課
事業実施期間	H28～R4	関連団体	県文化行政課、佐渡地域振興局企画振興部
事業概要	【事業目的】	○ 説明媒体の整備により、来訪者の構成資産に対する理解促進を図る。	
	【事業内容】	○ 構成資産の価値を分かりやすく説明するため、関連機関と協力し、ICT等を活用した映像の提供や多言語機能など、効果的な様々な説明媒体を整備する。 ※ICT: Information and Communication Technology	
事業計画と実績	【R2年度計画】	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業休止(R2年度は国補助金の減額査定により、予算確保ができなかったもの) ● ガイダンス施設内において、大型シアターやプロジェクションマッピングを用いた構成資産の解説を継続する。 	
	【R2年度実績】	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業休止(R2年度は国補助金の減額査定により、予算確保ができなかったもの) ● ガイダンス施設内において、大型シアターやプロジェクションマッピングを用いた構成資産の解説を行った。 	
課題・今後の取組	【課題】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既に設置・発行済みのサイン類やパンフレット類、ホームページやガイドアプリなど、多言語対応を必要とする媒体数が非常に多い。 ■ 佐渡金銀山の価値を分かりやすく説明するため、どのような媒体を用いるべきか検討が不足している。 ■ 既設解説サイン等の中には多言語化対応していないものもあるため、対策が必要である。 	
	【今後の取組】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多言語化については、令和3年度に多言語対応すべき言語を決定し、令和4年度末には既に設置したサインの4割の多言語化を完了させるよう取組む。 ■ サインやパンフレットなどの既存の説明媒体を活用しつつ、2次元コード読取やアプリ開発、VRやARなどの最新技術を用い、理解しやすい説明媒体の検討を進める。 	
事業評価	【事業の達成度】	◇ ガイダンス施設において、大型シアターやプロジェクションマッピングを用いた解説を行っており、来訪者向けの解説は概ね計画どおりに進んでいることからB評価とした。	
	【事業実施の効果】		
	【総合評価】		

a: 進んでいる。高い。
b: 概ね順調。概ね適切。
c: 遅れている。低い。

A: 計画を上回る進捗で、十分な成果が得られている。
B: 概ね計画どおり進んでおり、一定の成果が得られている。
C: 計画から遅れが見られ、十分な成果が得られていない。